

## 2017年7月実績概要(メモ)

(2017. 8. 24)

定修明けに沿って生産は対前月、対前年でプラス品目が多数となる。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 511,800トン

前月比 + 6.3% (+30,300トン)

前年同月比 + 2.5% (+12,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+ 2.3%	+ 1.5%
能力増減	-	+ 0.2%
稼働率変動	+ 0.7%	+ 0.8%
生産増減率	+ 6.3%	+ 2.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.5%→当月96.1%←前年同月95.4%

定修プラント：前月2社2プラント→当月2社2プラント←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に日数増と定修規模差からHD、PP、PS、SM、塩ビモノマー、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目がプラス。LD、塩ビ樹脂、BRの3品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因からPP、PS、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、ベンゼン、トルエンなどの13品目でプラス。LD、BRなどの4品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、HD、PP、PSでは日数増と定修系列数の減少等からそれぞれでプラスとなった。LDは主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、PP、PSは定修系列数の減少や稼働率要因からプラス。LDは主に稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、PPでは前月の出荷レベルが高かったこともあり当月は若干のマイナスとなった。HDではメインのフィルム用途で出荷減少が見られたが、中空成形分野等の出荷が増加し僅かながらのプラス。PSは第2四半期以降前期の反動による減少が続いていたが、当月は包装分野等の出荷が増加しプラスとなった。

前年比では、PPでは加工組立産業向けの出荷が多い射出成形分野の出荷の伸びが続いていること、PSではFS分野の出荷が増加しそれぞれでプラスとなった。これに対しHDはフィルム、パイプ分野の出荷減少からマイナスとなった。

ハ) 輸出

国内向けを中心とした出荷の動向に変化なく、輸出数量は低レベルで推移している。当月は前月に対してLD、HD、PSでマイナス。前年比でもLD、PP、PSでマイナス、HDのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HDで減少、PSで増加、PPは増減はほとんどなかった。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LD、PSはやや低下、HD、PPは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、PP、PSともほぼ適正水準、HDはタイト傾向が続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LD	▲12,800	3.1	3.0
HD	▲7,800	2.2	2.2
PP	+ 0	2.7	2.7
PS	+ 2,200	1.5	1.4

以上